

平成25年度 【 学園研究費助成金< B > 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ イヅカ エリト
氏名 飯塚 恵理人

研究期間 平成25年度

研究課題名 日本文学関係和書のデジタルライブラリ化についての基礎的研究

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	飯塚 恵理人	文化情報学部	教授
研究分担者	福永 智子	文化情報学部	教授
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字~300字程度で記述)

本研究は、古文書等の図書資料を①分類、②デジタル化、③アーカイブ化し、さらに④インターネットを用いて発信するための基礎的な「型」を作ることを目的とする。大学において所属する教員の研究成果をネット上で公開する「機関リポジトリ」は、研究成果・研究情報を広く社会に公開することとなり、その大学の学術・社会への大きな貢献となる。大学の成果物を公開する「機関リポジトリ」と、「デジタルライブラリ」は共に各大学の図書館が管轄することが多いが、システムやデータベースとしては別々に構築することが主流となっている。本研究では、本学資料に適合した「デジタルライブラリ」の基礎部分を構築したい。

2. 研究方法等 (300字程度で記述)

- ・ 図書資料・映像・音源資料をネット上で発信するためのシステムを構築し、サーバーを管理する。(研究費外だが、現代マネジメント学部の三木邦弘准教授に依頼する。)
- ・ 他大学・公共図書館等における資料の保存・活用、デジタルライブラリ構築の方法を調査する。(福永担当)
- ・ 「古文書実習」の教材としてふさわしいと考えられる江戸時代の御家流書体で書かれた版本をデジタル化し、その解題を執筆してデジタル化版本画像と共にデジタルライブラリに公開する。(飯塚担当)

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

本年度は本学名誉教授梅野きみ子氏御所蔵の承応版の絵入『源氏物語』を調査しその最初の冊から花の宴の冊までをデジタル化した。これを「椋山女学園大学図書館デジタルライブラリ」(<http://zeami.ci.sugiyama-u.ac.jp/dl/>)に公開すべく、現在準備を進めている。

実現すれば承応版の絵入『源氏物語』版本カラー版は、本邦初出の画像公開となる。白黒版は、米国議会図書館所蔵として、国際日本文化研究センターが全文を公開している。白黒版は、米国議会図書館といわずとも、あちこちの図書館が所蔵している。伊勢の斎宮博物館にも展示してあった。梅野きみ子名誉教授所蔵の絵入本は、稀覯本であり、またどこにも公開されていない。今回実現するならば、カラーの絵入『源氏物語』版本公開の、初めての例として海外でも用いられる可能性が強い。本研究グループは昨年度までに本学図書館所蔵の「撰集抄」版本を調査してデジタルライブラリに揚げているが、株式会社洋泉社（ようせんしゃ）から2014年2月21日に発行予定の『日本の呪術』（仮称）の「医療呪術」のページにこのデジタルライブラリに載る写真を掲載したいという問い合わせが来るなど学外からの反応もあった。図書館と本資料をデジタル化してネット公開することによって本学図書館が日本文化の教育のために収集した資料が、当該資料を直接用いる講義が無くなった後もひろく社会人の日本文学教育に資する教材として活用される道筋をつけることが出来た。今年度デジタル化に着手した絵入『源氏物語』は大部であり、単年度で調査とデジタル化を終えることが出来なかった。源氏物語の享受史を貴重な資料であり、本学図書館のデジタルライブラリに載せて公開すれば日本文学研究に大きく資すると期待されるので次年度以降も本研究・プロジェクトを継続して行きたい。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①デジタルライブラリ	②源氏物語	③デジタルアーカイブ	④文化発信
⑤図書館利用者	⑥日本学資料	⑦メタデータ	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他○名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもの数件を記載。)

今年度学園研Bの助成を受けてデジタル化した源氏物語の写真データは現在サーバーに載せるため現代マネジメント学部三木邦弘准教授に依頼して加工中である。このため、今年度の成果としてはまだ公開に至っていない。近日中にアップロードして公開したい。今年度デジタル化に着手した絵入『源氏物語』は大部であり、単年度で調査とデジタル化を終えることが出来なかった。源氏物語の享受史を貴重な資料であり、公開すれば海外の日本学研究にも資するので次年度以降も本研究・プロジェクトを継続して行きたい。